

国立

国会

図書館

月報

NATIONAL  
DIET  
LIBRARY  
MONTHLY  
BULLETIN  
2019.7/8



第54回貴重書等指定委員会報告

新たな貴重書のご紹介

『国立国会図書館月報』700号のあゆみ

国立国会図書館  
月報

NO. 699 / 700  
JULY / AUGUST 2019

CONTENTS

- 1 本の疎開  
——8月15日を越えて  
今月の一冊 国立国会図書館の蔵書から
- 5 第54回貴重書等指定委員会報告  
新たな貴重書のご紹介
- 14 『国立国会図書館月報』700号のあゆみ

- 25 館内スコープ  
あなたのもとにお届けします
- 26 本屋がない本  
『アルド・マヌーツイオとルネサンス文芸復興』
- 27 NDL TOPICS



表紙：  
杉浦非水 画『非水一般応用図案集』  
平安堂書店 大正10年 32cm  
<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/967554/36>  
(モノクロ画像)

# 本の疎開 ——8月15日を越えて

齋藤 ひさ子



帝国図書館（1906年新築当時）

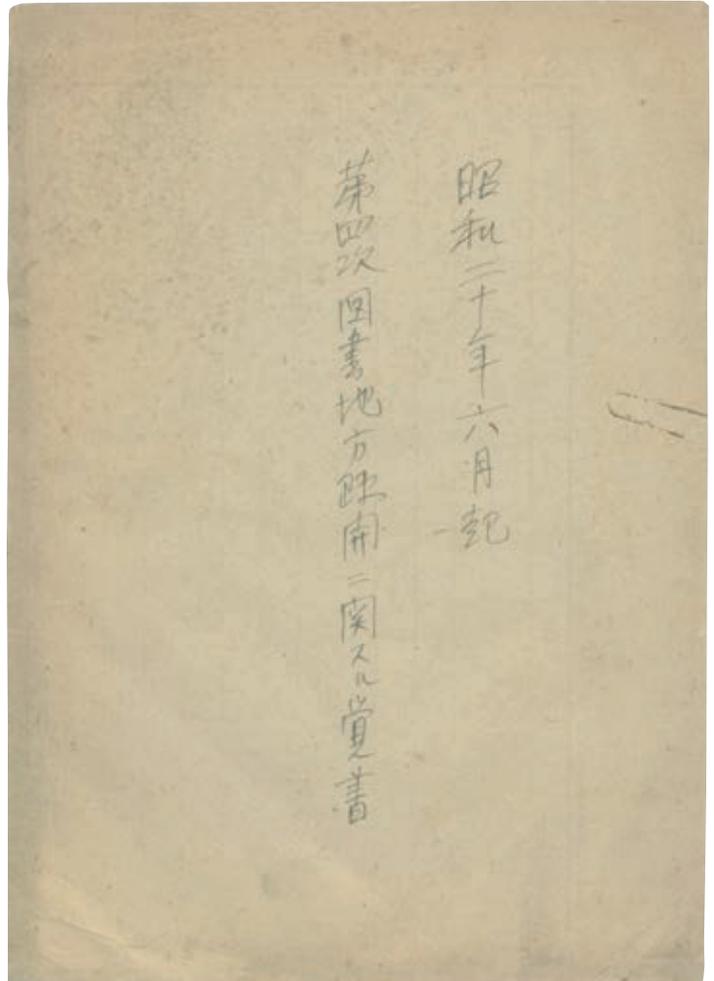
## 『第四次図書地方疎開二関スル覚書』

〔帝国図書館〕昭和20（1945）年 写<請求記号 帝文-787>

帝国図書館の事務文書の一部を、「国立国会図書館デジタルコレクション」で提供する準備を進めています。令和2年に本格提供開始予定です。本資料はそのうちの一冊です。

（参考）

[https://rnavi.ndl.go.jp/research\\_guide/entry/post-1036.php](https://rnavi.ndl.go.jp/research_guide/entry/post-1036.php)



本資料は、当館の前身のひとつである帝国図書館が、太平洋戦争末期に山形県下に向けて行った資料の疎開の覚書です。昭和20年6月から8月29日までの様子が、疎開計画の内容を示す文部大臣伺出文案と共に記されています。「第四次」とされたこの疎開は8月15日に資料を発送し、疎開期間を帝都に敵襲の危険がなくなるまで、と定めていましたが、発送当日に終戦を迎え、一旦中止となります。しかし二日後、この計画は、占領軍の接収を避けるという新たな目的のために続行が決定され、8月29日には山形県下の個人宅に搬入を完了しました。

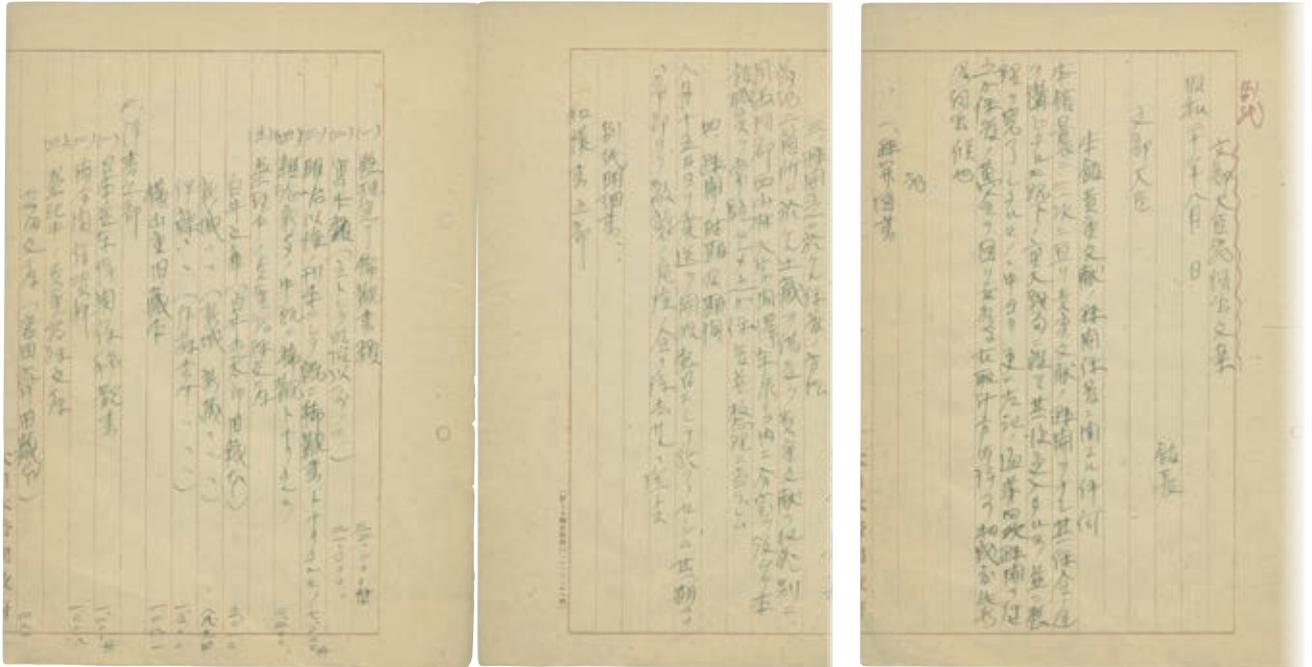
これを遡る昭和18年11月、戦局が益々苛烈となり、帝国図書館では、最初の疎開を県立長野図書館に向けて実施しました。指揮をとった岡田温（おかだ ぬる）（当時の帝国図書館司書官、後の国立国会図書館司書監）の著述や帝国図書館文書他の関係文献を辿ると、昭和20年8月までに亘る疎開全体の分量は、県立長野図書館（第1次から第3次に相当。後に再疎開して飯山高等女学校）に13万余冊、山形県西村山郡（第4次）に約8万2千冊、そのほか帝室博物館（現東京国立博物館）に9万1千冊、神奈川県高部屋村（現伊勢原市）に約2万冊など、合計30万冊超に達する規模です。これは当時の帝国図書館の蔵書の約3割に当たる

六月二十七日(火)  
 部長會議  
 カネテンノ議、勤キツ、アリシ圖書ノ第四次地方疎開ニワ  
 キ改メテ協議、史沼司書ノ親戚山形縣下ニアリ疎開  
 ・先揮察ニワキ便宜ヲ得ラレ得シ見込ミニワキ依頼文書  
 ニ当ルニトニ決ス  
 七月五日(木)  
 岡田司書官、史沼司書山形縣下ニ出張、圖書疎開先  
 並ニ之ニ伴フ職員箱舎ヲ物色、岡田司書官ハ十日、  
 史沼司書ハ十六日帰京、  
 七月十七日(火)  
 部長會議  
 岡田司書官、史沼司書ノ出張報告ニ基キ第四次地方疎開  
 ハ山形縣下左記ニ農家土蔵ヲ借入シテ實現施ト決定セルニキ  
 大日本帝國政府

之ト聞聯シテ  
 一 従来ノ地方疎開ニ際シテハ書誌學的意義ニ於テ貴重  
 ナル圖書ヲ指定セルモノハ貴重圖書ノ意義ヲ廣  
 ク解釈シテ多面的ニ指定シテ可ナルト  
 一 今回ハ圖書ニ隨伴シテ初メテ館員ノ疎開ヲモ實施シ  
 当圖書館ノ令室的形モヲ形成シ疎開圖書ノ保管ニ  
 任ズル他通常ノ館務ヲモ執リ更ニ進ニテハ地方文化向上  
 ノ大ニ活動スベキコト

(右) 疎開先は職員ノ親戚の伝手を頼り依頼、交渉することになりました。  
 (左) 第4次の疎開では初めて職員が随伴し、帝国図書館の分室的形式とすること、  
 疎開圖書の保管の他に通常の業務も執り行う事などが想定されていました。

と推定されます<sup>1)</sup>。  
 県立長野図書館への疎開は、詳しい記録等  
 が残り、その全貌を明らかにできます。『昭  
 和18・19年疎開移転関係書類(第1回)3  
 回』へ請求記号 帝文・725Vには、第一  
 次疎開資料として、貴重典籍類、旧幕府引継  
 書、準貴重書類、貴重軸物の他に、当時、疎  
 開の手立てを持たない蔵書家の申し出や紹介  
 等を通じて、購入して間もない貴重な個人コ  
 レクション(白井文庫、新城文庫、小川文庫)  
 が受入係所管貴重図書として記載されていま  
 す。第2次、第3次の疎開では特別和漢書、  
 学位論文に加え、根岸文庫(青山文庫)、榊  
 原文庫等の残余の諸文庫、帝国学士院の預か  
 り本なども疎開させていました。<sup>2)</sup>  
 一方、疎開先が個人宅などの場合は残る記  
 録が乏しく、詳細は把握が困難な点もありま  
 す。本資料が記す第4次疎開について「帝国  
 図書館蔵書疎開始末記」の筆者である佐野昭  
 は、関係費用の支払いや疎開復帰の際の運搬  
 業者の荷送り状等により、重量15トンという  
 大量の図書が運搬された事を確認し、現地調  
 査等も行いましたが「その全容を明らかにし  
 得」ず、「疎開そのものが異常な事態のもと  
 で、秘密裏にことが運ばれたためとも推測し  
 得る」としています。帝国図書館は終戦まで  
 幸いにして罹災することなく、各地に疎開し



文部大臣宛伺出文案の起草は8月9日でした。

た資料は昭和21年末までに引き上げを完了しました。

帝国図書館と同じ頃、全国でも多くの図書館員が資料の疎開に奔走し、また多くを失っていました。都立日比谷図書館は、中田邦造館長のもと、民間の貴重書を買上げれば疎開を進めましたが、建物は昭和20年5月25日の大空襲で、残っていた20万冊の蔵書と共に全焼、しかし終戦までに総計40万冊の疎開を行いました。富山県立図書館では、帝国図書館で岡田と共に疎開を担った大田栄太郎が昭和20年2月に館長に着任し、7月30日までに9次にわたり、約6万5千冊を疎開させました。疎開した資料の中には、空襲下の東京で受贈し富山まで輸送した前田文書、志田文庫等の貴重資料も含まれています。第9次疎開を終えた直後の8月2日、同図書館は富山大空襲で残る蔵書と共に焼失しました。

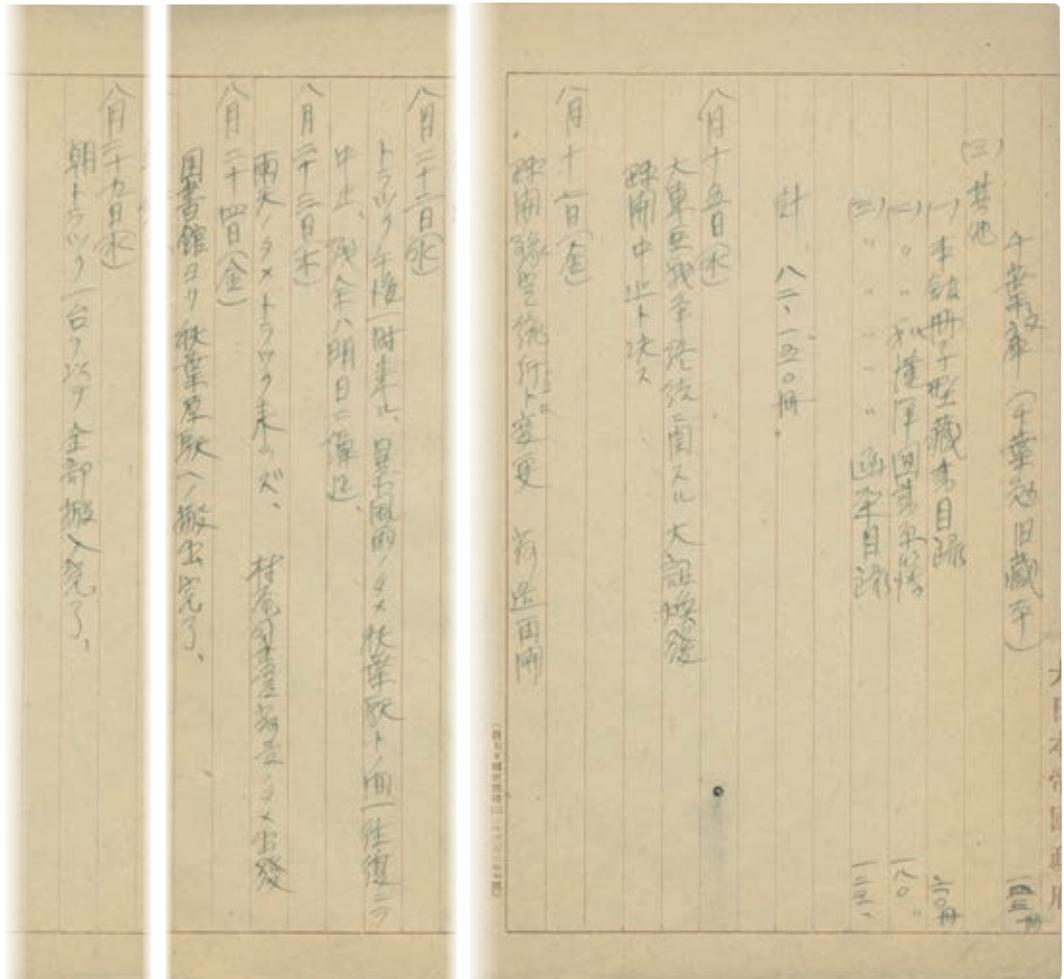
水戸市立図書館も同年8月2日の水戸空襲で建物と蔵書を焼失し、疎開によってわずかに1千500冊が残りました。その上、戦後、更に575冊が軍国主義的及び超国家主義的図書として焼却されました。<sup>(3)</sup> 戦禍を逃れて終戦を迎えながら、GHQの「宣伝用刊行物の没収に関する覚書」<sup>(4)</sup>等を巡り、各県当局の指令や自主規制によって、多くの資料を焼却処分した図書館も少なくなかったのです。<sup>(5)</sup> 『疎

開した四〇万冊の図書』<sup>(6)</sup>は、多くの図書館の疎開や被災の様子を紹介しています。

戦時下、占領下において、図書館は疎開や空襲だけでなく、思想指導、禁書、没収、焚書など、様々な矛盾と困難に遭遇しました。その中で、死に物狂いで資料を守る事に取り組んだ人々があり、残された資料があることに心を動かされます。そして世界中の図書館もまた、同様の悲劇と狂気の時を潜り抜けてきたことに思い至ります。

戦後、国立国会図書館は、「真理がわれらに自由にする」と謳い、「日本の民主化と世界平和とに寄与する」ことを使命として設立されました。終戦の日を越えて今日に届けられた世界各地の貴重な資料が、現在では、それぞれの国の図書館や研究機関等によって少しずつデジタル化され、一部はインターネットを通じて、国境を意識せずに利用することもできるようになりました。一方で、多くの国や地域で未だ紛争は絶えず、図書館や文化財が破壊されている現実もあります。

帝国図書館の疎開について執筆する中で、多くを学ぶ機会を得ました。未来に向けて資料を守ることの大切さを考えるとき、図書館の使命をあらためて胸に刻む一冊となりました。



8月15日、疎開計画は一旦中止と決定しますが、17日に荷造りを再開します。8月29日に山形県下の個人宅に搬入を完了しました。

### 疎開余話—大漢和辞典と諸橋轍次

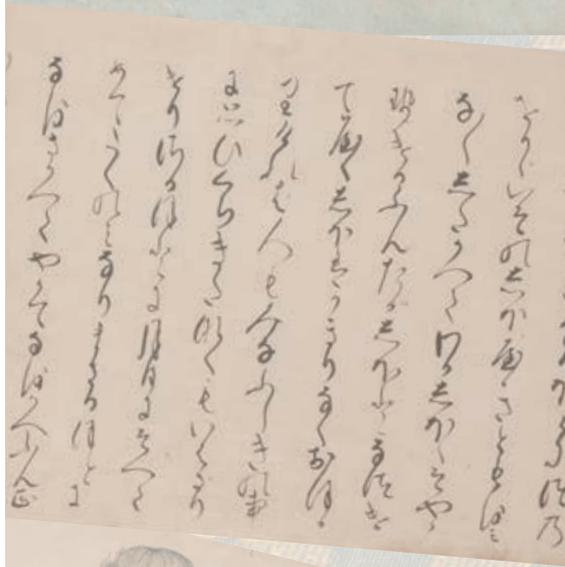
世界最大級の漢和辞典、『大漢和辞典』を出版した大修館書店社長、鈴木一平が諸橋轍次と漢和辞典の出版を契約したのは昭和2年のことでした。当初、1冊とされた計画が今日にみる大規模な編纂に変更され、全巻の整版ができたのが昭和12年、更に鎌田正や米山寅太郎ら5名が全原稿の修正に参加して第1巻が刊行されたのは昭和18年、用紙の調達も困難な中での偉業でした。しかし、昭和20年2月25日の空襲で大修館書店は全焼し、全文組置きの原版と編纂の為の貴重な資料一切が失われてしまいます。ところが幸いにも諸橋轍次は、全12巻分の校正刷3部を、一部は手許に、一部は静嘉堂文庫内に、一部は山梨に疎開させていたのでした。戦後、大修館書店は、この著者の手により戦火を免れた校正刷りを唯一の原稿として、あらためて辞典編纂を進め、日本の出版史に残る名著『大漢和辞典』（第1版）は昭和35年、「索引」を含む全13巻の刊行を完了しました。

山下和久「諸橋轍次—「大漢和辞典」とその周辺（辞典の歴史と思想 作人と引く人の対話）」『思想の科学 第6次』63号 1976.6<請求記号 Z23-215> pp.50-69

- 1 『上野図書館八十年略史』 国立国会図書館支部上野図書館 1953<請求記号 016.11-Ko5488u> p.170
- 2 県立長野図書館に疎開された資料は昭和21年3月までに引取りを完了しました。
- 3 水戸市立図書館50年誌編集委員会 編『水戸市立図書館50年誌』水戸市立中央図書館 1995.3<請求記号 UL244-E208>
- 4 SCAPIN-824: CONFISCATION OF PROPAGANDA PUBLICATIONS 1946/03/17 <http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/9885902>
- 5 当初、図書館、個人の蔵書は対象外とされましたが、後に図書館が所蔵する2部目は没収対象となりました。近代日本教育制度史料編纂会 編『近代日本教育制度史料 第28巻』大日本雄弁会講談社 1958<請求記号 373-Ki234-K> pp.482-486
- 6 清水正三「焚書の記録 敗戦時におけるある図書館の記録より」『みんなの図書館』111号 1986.8<請求記号 Z21-882> pp.2-7
- 7 金高謙二『疎開した四〇万冊の図書』幻戯書房 2013.8<請求記号 UL244-L47> 映画「疎開した40万冊の図書」もあり(2013年公開)。

#### ○参考文献

- 佐野昭「帝国図書館蔵書疎開始末記（三十年史の周辺）」『国立国会図書館月報』232号 1980.7<請求記号 Z21-146> pp.16-20
- 岡田温「終戦前後の帝国図書館」『図書館雑誌』59巻8号 1965.8 <請求記号 Z21-130> pp.2-6
- 北条正昭「地方の図書館事情」『図書館雑誌』59巻8号 1965.8<請求記号 Z21-130> pp.7-11
- 清水正三 編『戦争と図書館（昭和史の発掘）』白石書店 1977.2<請求記号 UL55-8>
- フェルナンド・バエス 著 八重樫克彦、八重樫由貴子 訳『書物の破壊の世界史 シュメールの粘土板からデジタル時代まで』紀伊國屋書店 2019.3<請求記号 UM71-M1>

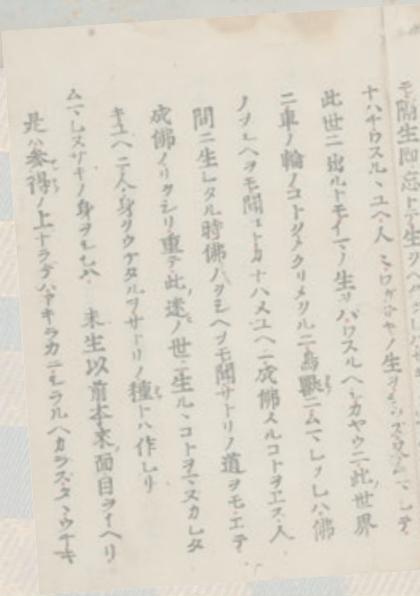


## 第54回貴重書等指定委員会報告

# 新たな貴重書の紹介

国立国会図書館は、蔵書のうち、特に重要な資料を「貴重書」「準貴重書」に指定しています。平成31年2月20日、和書3点を貴重書に、和書1点を準貴重書に指定し、累計で貴重書は1305点、準貴重書は798点となりました。

(貴重書等指定委員会)



1 「国立国会図書館貴重書指定基準」「国立国会図書館準貴重書等指定基準」の規定に基づき、館内の貴重書等指定委員会が行っている。



『文正草子』の後半では文正の娘と関白家の御子・二位の中將の恋物語が展開する。  
 卷下、商人に身をやつした中將は文正一家の前で琵琶を奏し、娘の姿を垣間見る。

『ふんしやう』は、御伽草子『文正草子』を奈良絵本に仕立てたものです。『文正草子』は主人公の文正が塩焼きから身を起こして長者となり、鹿島明神の申し子として授かった二人の娘も玉の輿に乗って、皆で長寿を全うする、という筋立てです。めでたいことづくめの内容が歓迎されて、嫁入りの調度品や正月の読み初め用として多くの奈良絵本が作られました。

『文正草子』の挿絵の数はおよそ12図から18図程度のもので多いようですが、本書は23図（うち見開き2図）の色鮮やかな挿絵を入れ、詞書の料紙にも一部金泥で草花等の下絵を施した豪華な造りです。縦24.0cm、横34.7cmという本書の判型は、横型冊子本の奈良絵本の中では最大級のもので、同じ大きさの奈良絵本『文正草子』は他に確認されていません。この判型の奈良絵本は多くが江戸時代前期の奈良絵本制作の最盛期に作られたものと推定されており、本書もまたこの時期の作品

と考えられます。  
 特大横型冊子本の奈良絵本は、絵だけを抜き取られたり、絵巻に改装されたりすることも多かったとみられ、完本で伝存しているものはそれほど多くありません。制作当時の形態を保ち、3冊揃いで伝世した本書は、最盛期の奈良絵本の姿を今に伝える貴重な資料といえるでしょう。

## ふんしやう

<請求記号 WA32-22>

[江戸前期][写]

3冊 大きさ24.0×34.7cm

奈良絵本（彩色絵入写本） 書名は書き題簽による 帙の書き題簽および木箱の書名：文正草紙 挿絵23図 每半葉12行毎行約14-18字 漢字平仮名交じり 一部濁点あり 卷下末尾に乱丁あり



## 奈良絵本

明治時代以降に使われ始めた用語で、室町時代後期から江戸時代中期頃まで制作されていた、彩色絵入写本を指します。平安時代の物語文学を素材とするものや、同時代の文芸・芸能である御伽草子・幸若舞などに取材したものが作られています。

黎明期には、個人の手になると思われる素朴な絵柄の作品がみられる一方で、17世紀後半頃の最盛期には、専門の絵草紙屋が大名や富裕層からの注文を受けて制作したと思いき、絢爛豪華な作品も登場します。卷子本・横型冊子本・縦型冊子本などの型式があり、高さ16cmほどの小型のものから、30cmほどの大型のものまで様々です。



(右) 巻下表紙

(下) 巻上、塩焼きの浜の場面。挿絵右上の柴を担う人物が主人公。





浦島が姫君を怪しんで打ちかかろうとする。

『浦島太郎』は、浦島伝説を題材とした奈良絵本です。

絵本などでお馴染みの「浦島太郎」ですが、現在一般的に知られている筋書きは、明治時代以降に普及したものです<sup>2)</sup>。8世紀頃に成立した『丹後国風土記（逸文）』所載の浦島説話では、主人公の名前は浦島太郎ではなく「水江浦嶋子」であり、筋書きも「嶋子に懸想した神女が五色の亀となって現れ、嶋子を蓬山とこよに誘う」というもので、近代の昔話とは異なります。

鎌倉時代末期に「御伽草子」と呼ばれる短編の絵人物語が発生すると、浦島伝説もその素材として採り上げられます。主人公の名前はこの時期に「浦島太郎」となり、また浦島が異界に招かれる理由は「女性の化身である亀を助けたことへの報恩」となります。また結末として、老いて死した浦島が神として祀られる（または鶴となった浦島と、亀である姫君が夫婦の

明神となる）という、寺社縁起の要素も取り入れられます。

本書もこの御伽草子系「浦島太郎」の内容を持つ資料ですが、現在確認されているほかの御伽草子系「浦島太郎」の諸本3)にはない、独自の要素が散見されます。特に、浦島が姫君を怪しんで打ちかかるうとする場面や、浦島が帰郷後、玉手箱を開けるまでの間に、里人の家に10年間滞在するという成り行きは珍しいものです。浦島が龍宮に誘われる理由も、「龍宮の大王による誘い」であり、特殊です。

本書は卷子装ですが、本来は横型の冊子であったと推測され、錯簡4)および冒頭部分をはじめとする本文の欠がみられます。特徴的な内容を持つ資料だけに、惜しいところではありますが、本書は浦島伝説の変遷を研究するうえで、また伝存数が少ない室町末期〜江戸初期奈良絵本の伝本として、貴重なものといえるでしょう。

## [浦島太郎]

<請求記号 WA31-21>

[室町末期-江戸初期][写]

1軸 紙高15.5cm

奈良絵本（彩色絵入写本） 卷子装 14紙継 漢字平仮名交じり 金箔貼木軸 茶色裂表紙 見返し：金銀箔散らし 紙背にペン書き及び墨書の通し番号あり 欠あり

2 代表的なものに、巖谷小波『日本昔噺第拾八編 浦島太郎』（博文館、明治30年）や、『尋常小学読本 巻三』（文部省、明治42年）所収「ウラシマノハナシ」がある。

3 御伽草子系「浦島太郎」の諸本については、林晃平「所謂御伽草子「浦島太郎」の諸本」（『浦島伝説の研究』おうふう、2001）、「所謂御伽草子「浦島太郎」の展開—近年における諸本研究とその行方—」（『浦島伝説の展開』おうふう、2018）等に詳しい。

4 製本時の手違いにより、本文の内容が前後すること。

貴重書

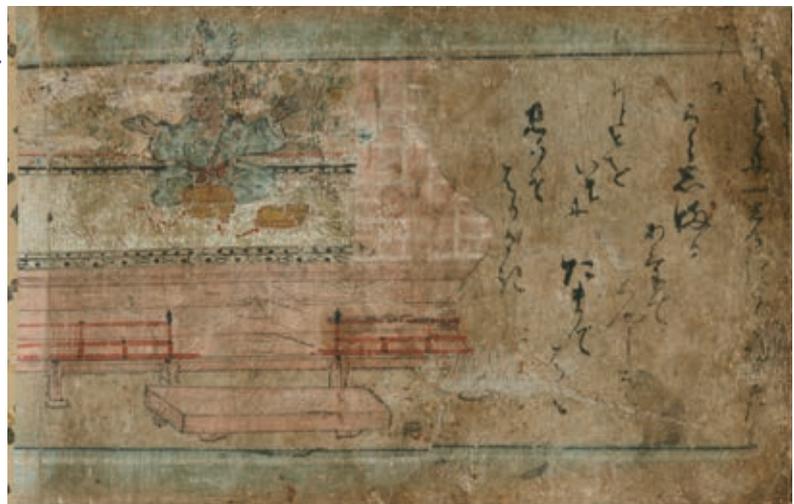


華やかな衣装に着替え、大王の盃を受ける浦島。浦島が2箇所(階の上と下)に描かれているが、これは時間の経過をひとつの画面で表す手法で、「異時同図法」とよばれる。

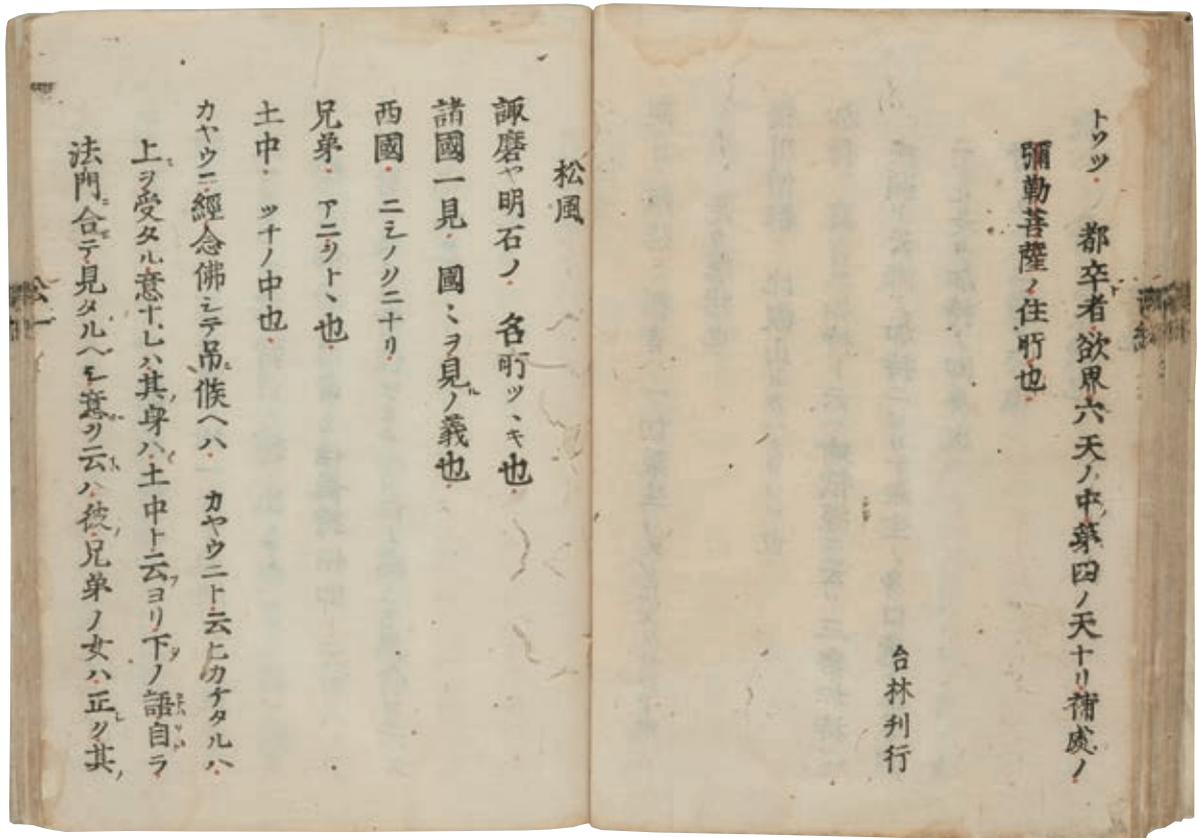


浦島と姫君の別れの場面。浦島が元の衣装に着替えて帰郷するのも、掲出本独自の展開(他本では、華やかな衣装のまま帰郷する)。

拡大



物語のクライマックス。玉手箱を開けた浦島は老爺になってしまう。



右丁は「浮舟」の最終丁。末尾に「台林刊行」とある。左丁は「松風」の冒頭部分。

## 【謡抄】

<請求記号 WA7-293>

[有節周保, 英甫永雄, 山科言経, 鳥飼道晰] [ほか著] [元和・寛永年間]

1冊 大きさ27.5×21.0cm

古活字版 台林刊本 無辺無界 每半葉9行 毎行21字内外 漢字片仮名交じり 版心に  
 曲目1字目と丁数を刻す「卒都婆小町」第6丁補写, 「姨棄」最終丁欠 虫損あり(裏  
 丁補修あり) 朱点・朱合点, 送り仮名等の書き入れあり

5 木版本や古活字本などの各丁の外枠の線。



『謡抄』は、豊臣秀次の命によつて文禄4年(1595)3月から撰述が開始されました。相国寺有節周保・建仁寺英甫永雄らの五山僧を中心とする当時の最高レベルの知識人に金春流謡本を注釈させたもので、最初の謡曲注釈書です。

『謡抄』の古活字版は5種類知られていますが(左頁の表)、本書は版面に匡郭がなく、片面9行であることから、「古活字無辺9行本」と呼ばれるものです。一部の曲の末尾に本書の刊行に携わった工匠・台林の名を記した「台林刊行」「台林刊」の刊記を持つことから、台林刊本とも称されます。刊行時期は、活字の様式及び台林の動静から、元和(1615~1624)以降寛永初年頃までと推定されています。本書は全102番10冊揃いのうち、10番1冊です。完本としては、京都大学附属図書館、早稲田大学演劇博物館、公益財団法人前田育徳会(尊経閣文庫)の所蔵本が知られています。

本書は多くの部分で誤植も含めて他の伝本と同じ組版となっておりますが、局所的に異植字を多く含

謡曲のあらすじ

「松風」

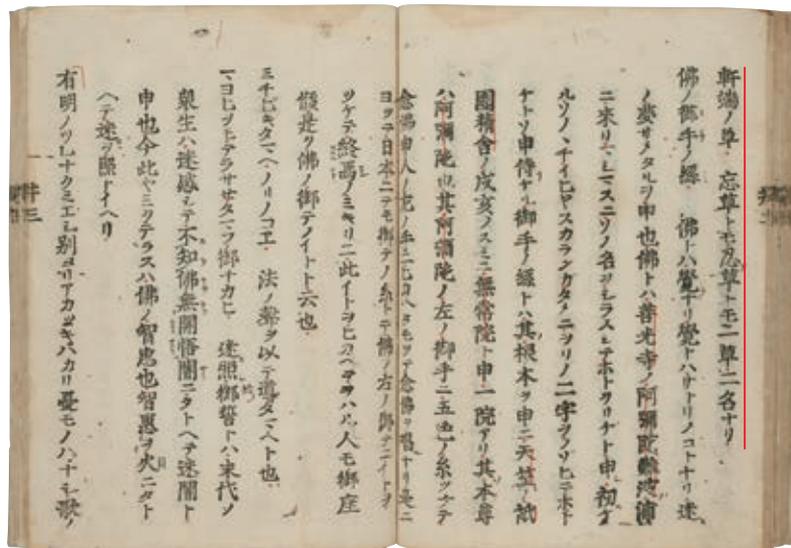
須磨の浦でいわくありげな松を見つけた旅僧は、里人から松風・村雨という姉妹の海人の旧跡であると教えらる。塩屋に帰ってきた二人の女に宿を乞い松のことを話すと、二人は涙ぐんで、自分たちは在原行平に愛された松風・村雨の霊であると告げる。思い出を語るうちに松風は半狂乱となって舞うが、夜が明けると僧の夢は覚め、松を渡る風の音ばかりが残る。

「井筒」

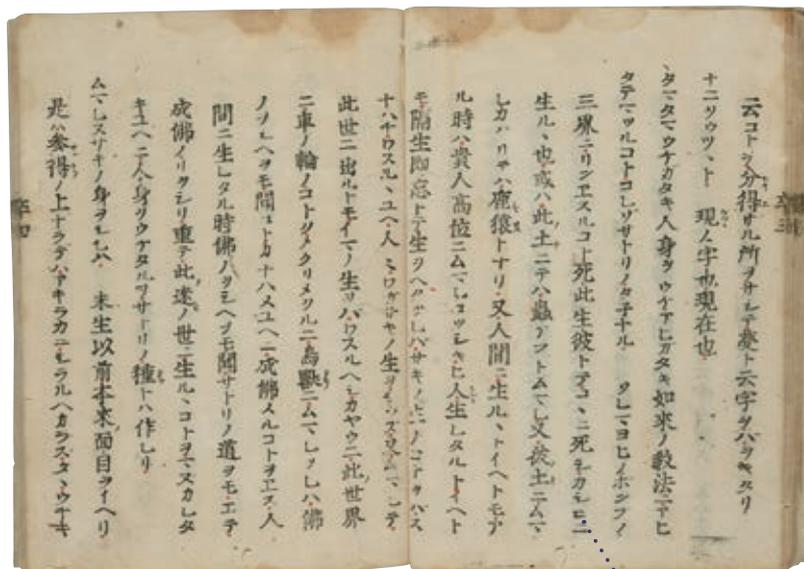
旅の僧が大和の在原寺に詣ると、里の女が現れ、在原業平と紀有常の娘の恋物語を語る。女は自分が有常の娘（井筒の女）であると明かして姿を消す。僧が寝ていると夢に井筒の女の霊が業平の形見の直衣を身に付けて現れ、井戸の水に自分の姿を映しながら業平を慕って舞う。やがて井筒の女は姿を消し、夜明けの鐘とともに僧も夢から覚める。

「卒都婆小町」

高野山の僧の一行が都へ上る途中、朽ちた卒都婆に腰掛けている老女を咎めるが、逆に法論でやり込められる。老女は問われるままに自分は小野小町のなれの果てであると名乗る。身の上を語るうちに、小町のもとに百夜通おうとするも九十九夜で死んでしまった深草少将の怨念により狂乱状態となる。狂いから醒めた老女は、悟りの道に入ろうと志す。



「井筒」の語句注釈。右丁1行目では「軒端の草」という言葉を「忘草、忍草ともいう」と説明している。



「卒都婆小町」3丁裏-4丁表。右（「卒三」丁裏）丁5行目の下から2文字目にある「コ」という活字が転倒している。（写真拡大部分）

拡大



む簡所が存在します。また、冊全体にわたって印刷された本文に送り仮名及び本文の修正等が傍記されており、校合を受けた形跡がうかがえます。異植字の発生に偏りがある理由や書入れの典拠等、後考が俟たれる点は多く、本書は古活字版の研究に止まらず、『謡抄』という注釈書の受容史を検討する上でも興味深い資料です。

なお、当館では左表のとおり他に古活字版『謡抄』を4種類所蔵しており、本書を加えることで古活字版『謡抄』を5種類全て所蔵することとなりました。

『謡抄』の古活字版各種

種別	当館の所蔵
(1) 双边11行本 (通称「守清本」)	『謡抄』(請求記号 WA7-208)
(2) 单边12行本	謡抄<請求記号 WA7-252> 第6,7冊のみ
(3) 無辺9行本	掲出本
(4) 無辺10行本 (通称「光悦表紙本」)	謡抄<請求記号 WA7-231> 第5冊欠
(5) 双边10行本	謡注甲集<請求記号 WA7-34>



第2折裏 頭、頭脳筋

第3折表 目、耳、口中并心臓經絡之圖、舌之圖

右上は「頭」図の貼紙を開いたところ。この下にも何層にもめくれるように貼紙が重ねられている。

『和蘭全軀内外分合圖』は、西洋の人体解剖図を日本で初めて翻訳・出版したものです。解剖図は入子式の貼込図版となっており、貼り重ねられた内臓等の形の紙片をめぐっていくと体の表面から深部が順次現れる仕掛けとなっています。原典はドイツの解剖学者ヨハン・レメリン<sup>6)</sup>著『小宇宙鑑<sup>7)</sup>』で、幕府の要人の依頼をうけた長崎通詞の本木良意(1628・97)が天和2年(1682)頃にオランダ語版(左頁左下)から翻訳したと推定されます。翻訳した当時は出版されず写本として伝えられていましたが、90年後の安永元年

(1772)に周防の医師・鈴木宗云により出版されました。『小宇宙鑑』オランダ語版と見比べると、全身図のまわりの臓器の図を別頁にまとめ、解説を別冊『験號<sup>けんごう</sup>』として独立させる等、構成に変更が加えられています。貼込図版の仕掛けは同様に作られていることがわかります。一般的に西洋人体解剖図の最初の翻訳書としては『解体新書』(安永3(1774)年刊)が知られていますが、本書の翻訳はその1世紀近く前に行われ、出版も2年先立ちます。本書が『解体新書』ほど知られていないのは、複雑な

## おらんだぜんく ないがいぶんごう ず 和蘭全軀内外分合圖

<請求記号 WB41-128>

[本木良意 訳] [鈴木宗云 編] [安永1 (1772) 跋]

1帖 大きさ25.9×15.2cm

書名は題簽による 男性図に「平安/画師/竹井立輔寫」とあり 出版年は『和蘭全軀内外分合圖』附録の「験號」(本資料には付属せず) 所載の清水剛跋による 折本 木版2色刷、手彩色あり 人体や内臓の断面を印刷した紙片を重ねて貼込む 大正13年小川剣三郎の識語あり 印記: 岡崎蔵書 岡崎桂一郎旧蔵

6 Johann Remmelin 1583-1632

7 1613年に初版がラテン語で出版された。

仕掛け図で出版部数が限られていたこと、西洋と東洋の医学概念の違いを十分に認識しないまま翻訳しており、わかりにくい内容となっている箇所があること等が理由として考えられます。しかし、本書が日本における西洋解剖学の受容の初期の例であることは間違いない、草創期の蘭学を知る上で貴重な資料です。

国立国会図書館蔵本は解説を記した別冊『験號』を欠きますが、解剖図は良好な状態で保存されており、資料的価値が高いといえます。





表紙



[男性図] (第2折表 折込図)

オランダ語版 (左下参照) にあった十字架図などは省略され、周囲の臓器図は別頁にまとめられている。オランダ語版の男性図左足下の「頭」図も別頁に移されている (本誌右頁参照) が、人物の構図はそのままであるため、不自然なポーズとなっている。

【参考】ヨハン・レメリン著『小宇宙鑑』1667年  
オランダ語版<請求記号 WB31-23>



# 700

## 『国立国会図書館月報』

### 700号のあゆみ

国立国会図書館月報（以下「月報」）は、今号で700号を迎えました。昭和36（1961）年4月の創刊から、形を変えながらも、国立国会図書館の「顔」として刊行してきました。この特集では、本誌そのものの歴史を振り返ります。



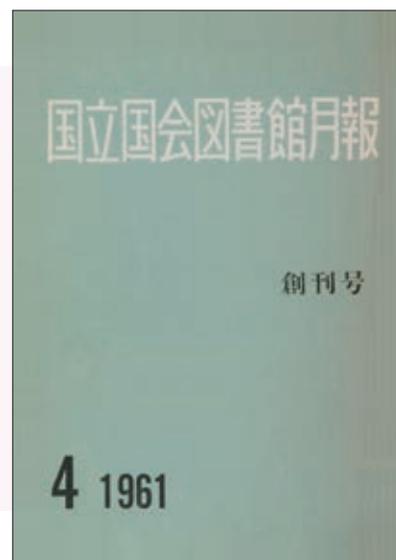
# 創刊のころ

月報が創刊された昭和 36（1961）年は、永田町にある現在の東京本館が竣工した年です。8月に赤坂離宮、三宅坂分室、支部上野図書館から大規模な移転作業を行い、11月に閲覧を開始しました。念願の新庁舎完成にあわせて広報誌を創刊し、国立国会図書館が国民すべてに開かれていることをアピールしようというのが、月報の創刊意図でした。

「旧赤坂離宮に在る国立国会図書館は、もっぱら、国会の図書館で、一般国民のための国立公共図書館は、今でも上野図書館であると思いきこんでいる人が、意外に多い。そのために、国会図書館では、一般の人にも閲覧が許されるのですか、というような質問を、しばしば受けることになる。まして、この図書館の活動に至っては、理解されることがきわめて少ないようである。

この一例によって示されるような事態は、わが国立国会図書館が一言でいえば、国民の各層のなかに溶けこんでいないことの証拠であろう。このような事態の責任の大半は、われわれ図書館員が、負わなければならないと感じる。いうまでもなく、わが国立国会図書館は、国会の、政府のための、全国民のための図書館である。」

創刊のことば 岡部史郎（副館長）



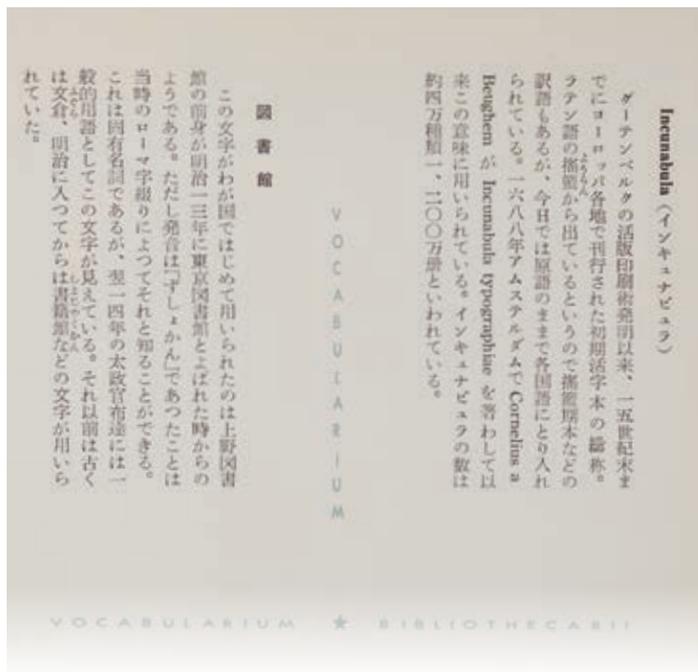
表紙のデザインは職員によるもの。

# '61

竣工した東京本館。西側（写真手前）の残りと北側（写真左側）はその後の第二期工事で完成します。



創刊号には、広報誌としての心意気が感じられる記事が多数あります。これらのほかにも、納本制度の解説、「図書館とわたくし」という寄稿も。

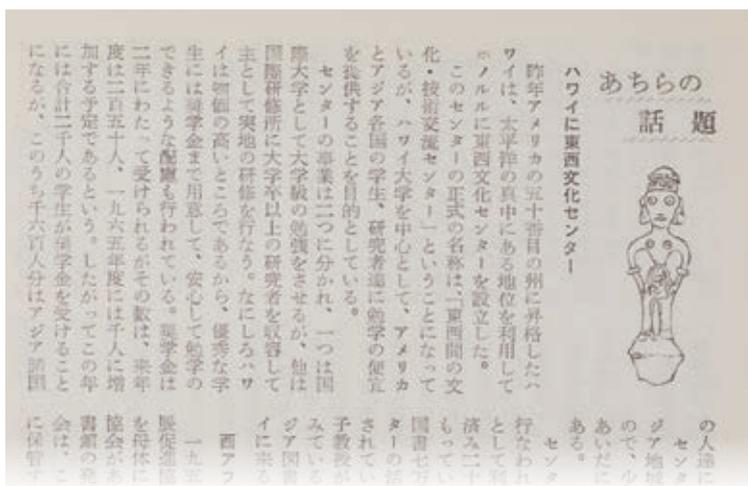


## VOCABULARIUM BIBLIOTHECARI

表紙をめくると、本や図書館に関する用語集が。裏表紙をめくったところには本に関する格言も載っています。

### あちらの話題

海外の図書館事情に対するニーズは、今も昔も変わりませんが、インターネットもなく、海外旅行すら自由にできなかった時代、月報の記事は貴重だったことでしょう。このコーナーは、1990年代前半まで続きました。



### 月報の前身



『読書春秋』  
昭和33（1958）年12月号



『国立国会図書館公報』  
昭和29（1954）年6月20日号

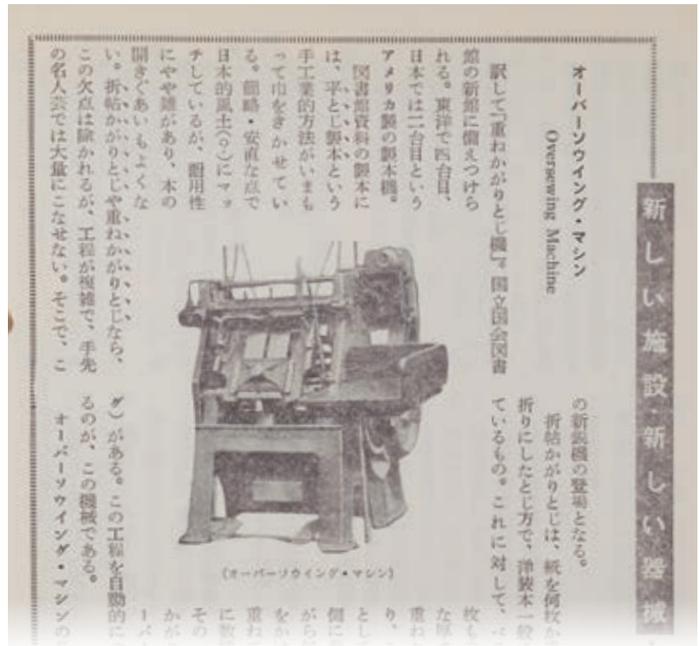
月報の前身は、館創立時の昭和23（1948）年5月に創刊された『国立国会図書館公報』です。統計や報告が掲載されています。何度も形を変えながら継続しましたが、「図書館のPR誌なのか、官報のような公知事項伝達のメディアなのか、ねらっている読者層がどれなのか、——きわめて曖昧模糊（あいまいもこ）（斎藤毅「月報誕生のころ——〇〇号を迎えて——」昭和44（1969）年7月号）でした。月報創刊の直前、昭和36（1961）年3月で終刊しました。また、この頃存在していた外郭団体「春秋会」の雑誌『読書春秋』（昭和25（1950）年4月創刊）も前身の一つと言えるかもしれません。本、読書に関する読み物が中心で、著名人が多く寄稿していました。海外事情を知らせる「窓」など、月報と似たコーナーもあります。終刊号（昭和33（1958）年12月号）の表紙（左画像）は初代館長である金森徳次郎の書画です。

創刊に寄せられた感想

「ながいこと国立国会図書館公報に

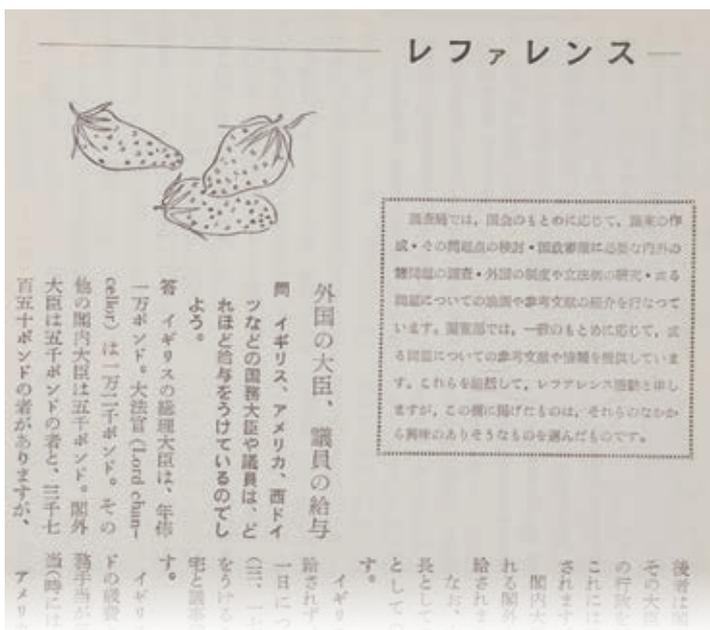
目を通してきたせいか、去る四月に月報と改題して創刊されたとき、あたかもながねん着こなした「羽織はかま」をかなぐり捨てて粋な背広に衣がえした老舗のだんなに、逢ったような気がした。それはそれとして、従来に比し、オドロクほど斬新な企画により「月報」の誕生をみたことは、待望の第一期工事完成を目前にひかえ新発足しようとする国会図書館が、その政策全般にわたって大本山こんりゅうの勧進元である国民に、広く訴えようとする前向きの意図がハッキリ感じられ、誰しもすがすがしい印象をうけたにちがいない。」

「納本制度」を津々浦々に」小田島道雄（都立日比谷図書館「ひびや」編集部員） 昭和 36（1961）年 11月号「読者の声」



新しい施設・新しい器械

新庁舎に備え付ける製本機械が紹介されています。このシリーズではその後、ゼロックス複写機やマイクロフィシュリーダー、電算機などが紹介されます。

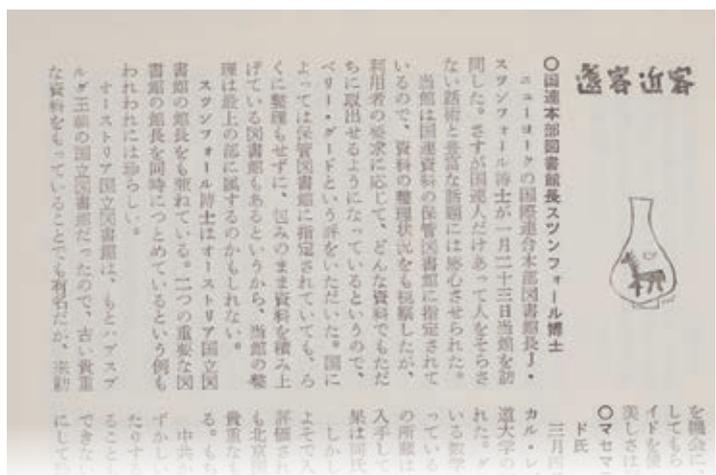


レファレンス

「国会のもとに於て」、また閲覧室で「一般のもとに於て」提供したレファレンスから、役立つような事例を掲載。こちらも 1990 年代前半まで続きました。

遠客近客

来客の紹介。平成 20（2008）年 2 月まで続きました。



東京本館に新館が開館  
(昭和 61 (1986) 年)



東京本館開館  
(昭和 36 (1961) 年)



図書館はこうして運ばれた 移転日誌 (グラフ) (61.8)

ニューメディアと図書館 (84.5)

情報検索装置を図書館に導入することは可能か (63.1)

和図書 CD-ROM  
閲覧利用実験 (89.8)

電子計算機による書誌編さんの試み (66.6)

電算機導入をめぐる一問一答 (70.3)

「和図書目録データ入力作業」始まる (77.2)

### 機械化

オンライン情報検索サービスの現況 (81.5)

JAPAN/MARC 入門 (83.9)

“図書館の図書館、をめざして  
対図書館サービス調査報告 (83.7)

対図書館サービス新体制でスタート (86.9)

### 図書館協力

明治・大正期等の新聞マイクロフィルム化計画の実施について (65.9)

和雑誌のマイクロ化について (75.8)

### マイクロ化

明治期刊行図書の  
マイクロ化開始 (89.10)

### 酸性紙問題

図書館の写真複製と著作権 (62.11)

酸性紙問題と図書館資料の保存  
文献案内 (84.7)

主題別書誌も掲載されていました。  
時代ごとの重要事項が見えてきます。

中ソ論争に関する邦文文献目録 (66.2 ~ 5)

核問題に関する書誌 (82.1 ~ 83.12)

公害行政・公害法関係邦文雑誌論文文献目録 (67.4 ~ 6)

ニューメディア文献目録 (84.10 ~ 86.5)

沖縄関係 (政治・経済・教育) 邦文文献目録 (67.9 ~ 10)

'84

'61

※ここにあげたのはほんの一例です



科学技術関係資料整備審議会  
委員長だった緒方富雄氏 (医  
学者) の助言により、目次を  
表紙に。(寺村由比子『国立  
国会図書館月報』表紙と緒方  
富雄先生』平成 5 (1993) 年  
1 月号より)



創刊当時は A5 判、  
本文モノクロ、縦書き。



総索引を昭和 53 (1978) 年と平成 7  
(1995) 年に刊行しています。データ  
ベースのない時代、カードで編纂作  
業を行いました。

かつて、入稿はすべて紙で行いました。  
紙焼き写真には薄紙をかぶせて、トリミ  
ング範囲を指示。文字と写真の配置が実際  
どうなるかはガラにならないとわかりませ  
んでした。

初期の編集の悩みは、原稿の依頼、集まり具合、  
レイアウトなどのほかに、あきスペースに入れる  
カットがないこともあり。当初は印刷会社のも  
のを借用し、5 号からは絵の上手い職員がカッ  
トを描きました。(小林登美子『月報』創刊のころ』  
昭和 63 (1988) 年 9 月号より)

# 月報年表

関西館開館  
(平成 14 (2002) 年)



国際子ども図書館開館  
(平成 12 (2000) 年)



関西館への資料移送、第1便出発 (02.4)

## 震災と被災資料

図書館の復興とその支援 大震災を越えて (11.10)  
図書館・文書館における資料防災 (11.6)

## 新しい形態の資料

SP 盤のデジタル化 利用と保存の両立をめざして (11.9)  
走れ! 収集ロボット インターネット資料収集のしくみ (10.12)

お答えします、図書館送信のギモン  
あれこれ (16.1 ~ 2)

ホームページをレファレンス・ルームに 主題情報発信の強化 (04.10)

館長対談 (08.10 ~ 10.2)

国会会議録光ファイル・システムの構築について (93.5)

「パイロット電子図書館」プロジェクト 未来型図書館の構築に向けて (96.4)

国立国会図書館「電子図書館構想」について (98.9) **電子図書館**

Web-OPAC の館内提供を開始 (99.7)

古典籍資料室における電子化資料の提供について (98.10)

『コドモノクニ』と『幼年画報』の著作権者探しの結果について (99.6)

印刷カードの作成・頒布事業の廃止について (97.4)

カード目録の撤去と新しい目録ホール (03.8)

総合目録ネットワークの形成をめざして 調査報告会から (92.10)

ドキュメント・サブライ・サービスの前進に向けて (95.1)

'17

'08

'98



HP 等での発信が盛んになり、月報は読み物としての役割を果たすべきだと再確認。平成 29 (2017) 年 5 月、読みやすいよう、ふたたび縦書きに。



平成 20 (2008) 年 4 月、広報誌としてより魅力的にするため、A4 オールカラー、横書きに大幅リニューアル! 検討は平成 17 (2005) 年頃から始まっていました。



はじめてのカラーページは写真で国立国会図書館の 50 年を振り返る記事でした。(平成 10 (1998) 年 7 月号)

表紙画像は、まだ「国立国会図書館デジタルコレクション」がなかったため、「貴重書画像データベース」から探すことが多く、古典籍資料がほとんどでした。

DTP ソフト InDesign を使って誌面を作成しはじめたのは平成 18 (2006) ~ 19 (2007) 年頃です。

### バックナンバーの閲覧方法

平成 16 (2004) 年 4 月号以降の号は、「国立国会図書館デジタルコレクション」でインターネット公開しています。それ以前は国立国会図書館館内限定公開です。ご来館いただくか、お近くの公共図書館等の所蔵をご確認ください。

デジタルへの過渡期には、フロッピーディスクに Word データを入れて入稿し、写真もデータで入稿したり、紙焼きを渡したりしていました。

## 回想録

創立時に中堅だった職員が定年退職を迎える 70 年代

はじめ以降、職員の回想録が多数掲載されます。

国立国会図書館の発祥の地であり、場所であった赤坂離宮は私にとってはまことに忘れ難い建物であります。と申しますのは年若く宮内職員になった私は、今から半世紀前すでに赤坂離宮に出入しておりました。(中略)私は威厳と気品に満ちた戦前の赤坂離宮も知っていますし、また図書館となり、観光のルートになり、喧噪と雑踏の巷と化した戦後の赤坂離宮も知っているわけです。

河内巖「赤坂時代の追憶」昭和 46 (1971) 年 3 月号

晴れて図書館員となり、はじめて帝国図書館の書庫に、足を踏み入れたときの感激は、いまだに忘れられない。窓硝子は破れ、裸電球がところどころにぶらさがっている、寒々とした書庫ではあったが、戦争によりすべてを失った日本にあって、ここには、民族の文化遺産ともいべき図書・典籍が、無傷のまま残っていた。

外垣豊重「回想・上野時代」昭和 58 (1983) 年 2 月号

課長は、今度中村嘉寿先生(衆議院の初代の図書館運営委員長)から、最近のアメリカの労働事情について、一週間でその概要を調べてほしいとの御依頼があったから、君一つやってくれと、(中略)先生はこのような調査の結果を、新しく国会図書館を設けると、議員が自分の調査したいことについて大いに便宜を得るだろうということを示す材料に用いたのである。

山下信庸「私の図書館入門記」昭和 47 (1972) 年 3 月号

入館してまず驚いたのは係長が女性だったことです。当時の日本で、女性が係長というのは珍しいことでした。中年の女性が職業を持っていて、しかも係長!

北畑静「三十余年をふりかえって」昭和 61 (1986) 年 3 月号

## ラベルと請求記号

蔵書の来歴等を知る大切な手がかりであるラベルや請求記号を、前身である戦前の図書館のものから、直近のものまで網羅して紹介しました。ラベルは可能な限り原寸大で掲載しています。連載は昭和 46 (1971) 年 1 月から 49 (1974) 年 12 月まで(画像は2回目) 4 年間続きました。



「ラベルと請求記号 東京府書籍館時代」昭和 46 (1971) 年 2 月号

## 三十年史の周辺

昭和 53 (1978) 年に創立 30 周年を迎え、54 (1979) 年に『国立国会図書館三十年史』が刊行されました。そこに漏れた話を月報の昭和 53 (1978) 年 10 月から 55 (1980) 年 7 月まで連載しています。「真理がわれらを自由にする」の話から、独身寮の話まで、今となってはとても貴重な資料です。

上から、藤尾正人「三十年史の周辺⑬ 白雲寮ありき」昭和 55 (1980) 年 2 月号、石原義盛「三十年史の周辺⑥ 真理がわれらを自由にする」昭和 54 (1979) 年 5 月号



# 今もあるあのコーナー

## 本屋にない本

創刊号から現在まで続く唯一のコーナーが「本屋にない本」です。創刊号では、なんと8ページ、17冊もの本を紹介していました。洋書も多数見受けられます。現在は毎月1冊ずつですが、これはインターネット上の書店の発達などにより「本屋にない」範囲が狭まったことを示しています。そんな現代でも、入手しにくい本は依然として存在するため、納本制度の意義を示すコーナーとして、現在も継続しています。



「本屋にない本」昭和36（1961）年4月号

# '61



「館内スコープ」昭和60（1985）年11月号

## 館内スコープ

昭和60（1985）年11月号から始まりました。これは、東京本館の北側に新館が開館した前の年にあたります。資料紹介や業務報告だけではなく、「人」に焦点を当てたいという趣旨で始まりました。最初の話は、新館開館にさきがけて行われた組織改編で誕生した新しい部「逐次刊行物部」についてです。

軽く読めるコーナーとして人気を博し、平成9（1997）年に、それまでのものを再構成した『国立国会図書館のしごと集める・のこす・創り出す』（日外アソシエーツ）が刊行されました。

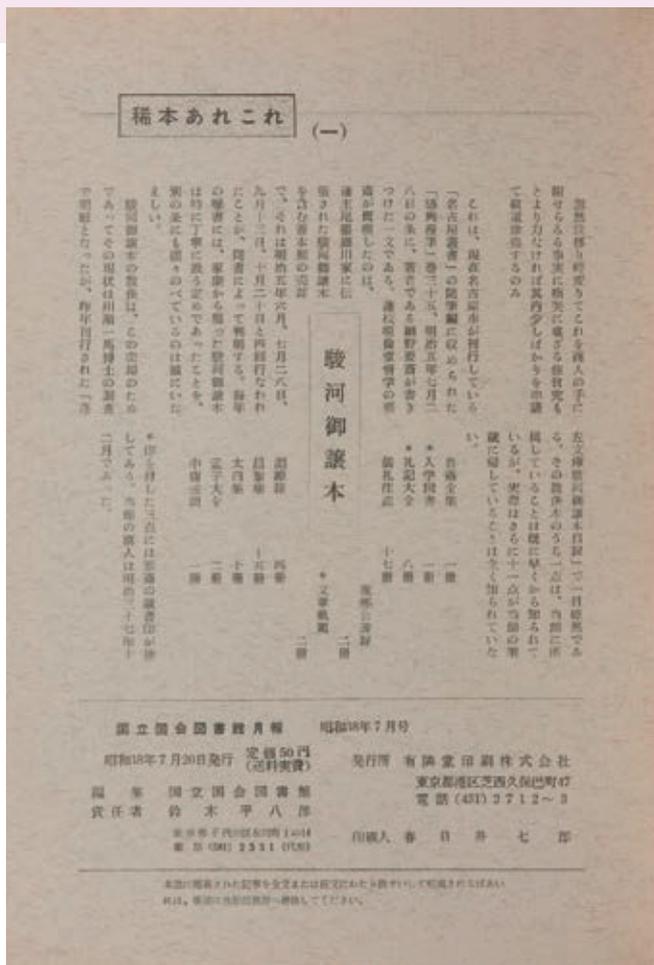
現在も、主に若手が仕事の裏話を肉声で楽しく伝えるコーナーとして継続しています。

# '85

# 進化したコーナー

## 稀本あれこれ

貴重で珍しい蔵書を紹介するコーナーです。創刊まもない昭和38(1963)年7月から、平成20(2008)年のリニューアルまで、なんと45年も続きました。平成6(1994)年には、これらをまとめた『稀本あれこれ 国立国会図書館の蔵書から』(出版ニュース社)も刊行されています。



「稀本あれこれ (一) 駿河御譲本」昭和38(1963)7月号  
最初期は奥付の上のスペースに掲載されていました。最後の頃はカラー口絵として巻頭を飾りました。

## 今月の一冊

今月の一冊 April  
国立国会図書館の蔵書から

### 『インゴルズビー伝奇集』

白岩一彦




本書の著者として名前が出ている Thomas Ingoldsby は筆名で、本名は Richard Harris Barham (1815-1896) という。彼は英国国教会の司祭であったが、文章にも手を染め、英国に伝わる伝説等をもとにして創作した物語に『Friside Stories』という題を付け、雑誌『Bentley's Miscellany』の前身号 (London, 1837) から連載した。この連載記事は、Thomas Ingoldsby が人から聞いた話や古い書物をもとに執筆したという想定で連載され、読者にズボン穿られた男の顔といったユーモラスな挿話が、Caulkharck や Ternial など当時一流の画家の挿絵と相まって好評を博した。

この挿絵の挿絵者は、若き日の Charles Dickens その人であり、彼は『Bob』の筆名で挿絵と執筆を担当した。彼自身の小説『Oliver Twist』も Caulkharck の挿絵入りでこの雑誌および他の雑誌に連載され、やがて単行本として出版されることになる。

本書の場合も、『Friside Stories』(のちに『Family Stories』と改題)の連載をまとめた単行本が、『Ingoldsby Legends』という書名で1840年と1842年に続けて出版され、1843年にはその一巻本が再行されて版を重ねた。しかし本書の著者 Barham は、自分の実性が知らぬよう、著者 Ingoldsby が1845年に死去したということにして、この架空の著者 (挿絵を除く) は、この架空の著者の死後50年となる1895年に休養期間が満了となった。そこで、本書の新版切れを持ち構えようとして、新しい挿絵を入れた本書の新版が次々と再行されるに至った。

ここで紹介する Arthur Rackham の挿絵入り『インゴルズビー伝奇集』も、最初1898年に再行されたものに挿絵を追加して1907年に再行された。いわば決定版といえるべき本であり、有縁の表紙にも金箔押しが施されている。



図1 本書には、同時に行かれた一冊り大きい白いヴェラム紙の豪華本もあり、こちらの方は関開字でも関書館で所蔵している。

Arthur Rackham は20世紀前半の英国を代表した挿絵画家で、本書のほかに『アンデルセン童話集』や『不思議の国のアリス』、『グリム童話集』などの挿絵を手がけた。彼の初期の挿絵は、絵筆による写実的なものであったが(図1)、やがて本書にも見られるような、茶色や黒など濃い色調を多用して風景や人物を描写する独特の挿絵を確立した(図2)。彼の絵には、北イングランド、ヨークシャーあたりの濃い霧り空、吹きさらす高風、空のかなたの小さな鐘明かりといった風物を感じる。

Arthur Rackham の挿絵が入った書物は、日本でも多次翻訳・出版されているが、この『インゴルズビー伝奇集』は翻訳されていないので、日本の読者にはあまり知られていない。しかし英米では、『死者のノック』(Dead Man's Knock)のように、本書の中の文章から題名を付けた本や挿絵もあるくらい、よく知られている書物である。

The Ingoldsby Legends; or, Mirrh and Marvels. By Thomas Ingoldsby, esq. With illustrations by Arthur Rackham. London: J. M. Dent, 1907. 549 p. frontis., plates. 26 cm. Original decorated cloth. (当館請求記号 398.2-IN4)

参考文献: 特号『アリス』の挿絵師アーサー・ラッカム  
『国立国会図書館月報』8(1)(2001)pp.23-30.  
図1: 4.4. 東京大学『アーサー・ラッカムの挿絵とその影響』  
一宮寛之の考案、『美術研究』20(2002)pp.163-173.

# 108

平成20(2008)年4月のリニューアルで、より広い範囲の蔵書を紹介するコーナーができました。「稀本あれこれ」の進化版といえるでしょう。

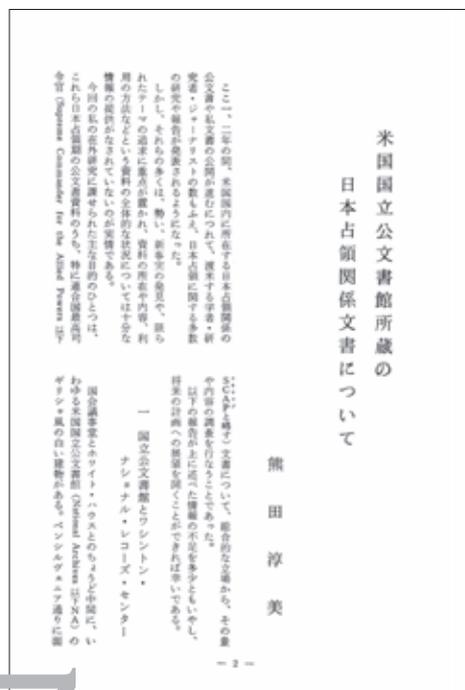
白岩一彦「今月の一冊 インゴルズビー伝奇集」平成20(2008)年4月号

# 歴史を動かした記事！？

## 資料収集のための予算獲得！

昭和 51 (1976) 年にアメリカに長期出張した職員が、アメリカ国立公文書館で所蔵している日本占領関係資料 (GHQ/SCAP 文書) について、その概要とともに、日本人がバラバラに大量にコピーし、しかも内容が重複している現状を、月報の昭和 52 (1977) 年 4 月号で報告しました。「私の『月報』の論文記事に対して、わりあい世論も、マスコミも含めてですけれども、反応が高かった。『月報』の記事で抜刷を作ったなんてことはそれまでおそらく無いと思うんですね。」(熊田淳美氏発言「占領期資料収集プロジェクト研究会 初期を中心に (第 1 回)『参考書誌研究』77 号 (平成 28 (2016) 年 3 月) より)

その結果、翌年には国立国会図書館が一括してマイクロ化して収集するための予算がついたのです。



熊田淳美「米国立公文書館所蔵の日本占領関係文書について」昭和 52 (1977) 年 4 月号

## 資料寄贈のきっかけに！

蔵書印とその所蔵者を紹介するコーナー。昭和 50 (1975) 年 1 月から平成 12 (2000) 年 12 月までタイトルを変えながら続き、平成 14 (2002) 年にそれらをまとめた『人と蔵書と蔵書印—国立国会図書館所蔵本から—』(雄松堂出版) も刊行されました。平成 11 (1999) 年 9 月号に掲載された、大沼枕山 (漢詩人) の記事は、のちにご子孫から枕山の資料を寄贈していただくきっかけとなった記事です。執筆者が記事執筆の調査のためにご子孫と連絡をとり、その後も年賀状のやりとりなどを長年つづけた結果でした。寄贈いただいた資料は、のちに準貴重書に指定されています(「第 52 回貴重書等指定委員会報告 新たな貴重書のご紹介」平成 29 (2017) 年 7/8 月号)。「自分が月報の執筆や資料を通して得た交流は、仕事をするうえで大きな財産です」と執筆者の弁。



川本勉「国立国会図書館所蔵本 蔵書印 —その 289— 大沼枕山」平成 11 (1999) 年 9 月号

「国立国会図書館の資料は借りられますか？」

電話で問い合わせを受けていると時々聞かれる質問です。残念ながら、国立国会図書館では個人の登録利用者に対して資料の館外貸出は行っておりません。ですが、自宅や近くの図書館でも資料を利用してもらえるよう、当館では遠隔複写や図書館間貸出、図書館送信（図書館向けデジタル化資料送信サービス）といったサービスを行っており、私の所属する複写貸出係は、主にそういった遠隔利用に関する業務を担当しています。

係の仕事は、郵送等による利用者登録、関西館資料やデジタルコンテンツへの遠隔複写、関西館での来館複写、図書館間貸出や図書館送信の承認手続など多岐に渡りますが、中でも、郵送等で複写物を提供する遠隔複写サービスが業務の大きな柱の一つになっています。

遠隔複写の年間処理件数は国立国会図書館全体で約26万件に上り、そのうち関西館で処理されるのは半分の13万件ほどです。業者さんの手を借りながら、申込と資料の照合、複写、封筒詰め、発送など一連の作業が行われ、毎日数百の申込が処理されています。複写する資料やページは申込ごとに異なるため、中には判断に迷うケースもしば

しば。必要に応じて申込者に複写箇所を確認するなど、一つひとつの申込に対応しています。

遠隔複写の場合、申込者と顔を合わせる機会はいずれも無く、また、申込内容から申込者の動機や背景までを知ることができません。しかし、申込の内容が1件ずつ異なるように、資料を必要とする人は一人ひとりいて、それぞれに申込をした理由や経緯があるはずで、「古い翻訳本を読みたいと思って・・・」「納本されている自分の本のコピーが欲しい」「雑誌に掲載された、ある図版が必要なんです！」など、複写に関する問い合わせで話を伺っていると、日々処理している申込の向こうにさまざまな人がいることを実感します。

「本というのは友人に宛てた分厚い手紙である」。ジャン・パウルという作家が残した言葉です\*。彼のいうとおり本が友への手紙であるなら、図書館の役割とは、時も場所も隔てた友人宛ての手紙を届けることなのかもしれません。手紙（資料）の宛先になる人たちがいるかぎり、届ける仕事は終わりません。明日もきっと申込書と資料とにらめっこです。

（文献提供課複写貸出係 ほんのはいつついん）



あなたのもとにお届けします

※ 『人間園』の規則 ハイデッカーの『ヒューマニズム書簡』に対する返書』ペーター・スローターダイク 著 仲正昌樹 訳 御茶の水書房 2000.8 <請求記号 HD91-G35>p.8

# 本屋に

# ない

# 本



## アルド・マヌーツィオと ルネサンス文芸復興

雪嶋宏一 著 東京製本倶楽部会報編集  
室 編  
東京製本倶楽部会報編集室  
2014.2 124p 21cm  
<請求記号 UM31-L2>

See also...

雪嶋宏一 著「アルド・マヌーツィオと彼の後  
継者たち」  
(本誌 675/676(2017年7/8月)号)

よく知られているように、グーテンベルクは15世紀半ばに活版印刷術を発明した。しかし、今日我々が目にするような書物は彼の発明で一気に完成したわけではない。例えば、この国立国会図書館月報の紙面の隅にも小さくページ番号(ノンブル)が振ってあるように、現代のほとんどの本はページ付けがなされているが、世界で初めてページに番号を付けることを考えたのは、15世紀後半のヴェネツィアで印刷技術者、出版者として活躍したアルド・マヌーツィオであった。

1515年に没したアルドの5000年忌を準備するものとして著されたのが本書である。本書では、はじめに前史としてグーテンベルクからアルドまで、活版印刷術揺籃期の歴史が素描され、続いて人文主義的素養を持つ古典学者として訓練を積んだアルドの来歴が紹介される。そして、古典学者としての教養、目的意識と不可分であった彼の印刷出版活動が時代ごとに詳述され、アルド亡きあとのアルド出版所が行く末が語られる。

アルドは、グーテンベルクの成しえなかつた出版業の商業化に成功し、読書を娯楽にしたという点で優れた実業家であった。印刷術の進化によって、それまで大学や教会にのみ蔵されていた書物の価格は下がり、裕福な市民階級にも手が届くものとなった。彼ら市民階級は、アルドの印刷所が出版するラテン語の詩集をよく読んだ。アルドは出版物の判型を小型化し、彼の印刷所のマークである錨とイルカの図柄——本書の表紙にも載っている——の印刷された書物を持ち歩くことは、当時の知識人のステータスシンボルとなった。

こうして、書物の形態や、その受容のあり方はかなり現代と近いものになった。ところが、もし当時の書籍販売の様子を見たとしたら、現代との大きな違いに一目で気づくだろう。売られている本が製本、売られていない本の紙の束が紐にくくられて売られているのである。

ルネサンス期の読者は買った本を簡単に仮綴じして読んだが、必要であれば職人に頼んで豪華で堅牢な装丁を施してもらったことができた。当時の愛書家にとっては、自らの好みに応じて装丁を施すことが読書の楽しみの一つだったのだ。この時期の工芸的、美術的な製本術はルリユール(velin)の名で現代にまで伝わっている。

そして、本書はアルドの時代さながらに、未綴じの状態出版された本だ。蔵書家によって思い思いにルリユールされることを待っているのである。どのように製本、装丁しようか、どのように着飾らせてあげようか、想像を巡らせながら読む楽しみは、現代ではなかなか味わえないものだろう。

(御幡真人)

国立国会図書館は、法律によって定められた納本制度により、日本国内の出版物を広く収集しています。このコーナーでは、主として取次店を通さない国内出版物を取り上げて、ご紹介いたします。

# NDL Topics

## 関西館資料展示(第26回)「お!べんとうの本」

外出時の携帯食を指していた弁当は、江戸時代に大いに発達し、幕の内弁当に代表される、娯楽と結びついた「楽しむための弁当」が生まれました。

弁当文化は、さらなる発展を遂げて現代に至ります。家庭の弁当では、栄養価が高く、美しい盛り付けのレシビが数多く考案され、最近では「キャラ弁」が人気です。駅弁はご当地の味覚で日本人の旅行を盛り上げてきました。コンビニ弁当は現代人には欠かせません。さらに近年、日本の弁当が海を越え、「Bento」として人気を呼んでいます。

弁当そのものの種類の豊富さだけではありません。食品加工や防腐技術といったテクノロジーは、現代の弁当を支えています。また弁当箱などの道具の世界には奥深いものがあります。

本展示では歴史、文化、産業等、多様な切り口から、弁当に関する本と雑誌約100点を紹介します。

○開催期間 8月22日(木)～10月15日(火)

※日曜・祝日・9月18日(水)は休館

○開催時間 9時30分～18時

○場所 関西館閲覧室(地下1階)



神奈川県食糧営団編『決戦食生活工夫集』産業経済新聞社、昭和19<請求記号 596-Ka43ウ>戦時中の弁当のレシビ。



小泉清三郎(迂外)著『家庭鮓のつけかた』大倉書店、明43.7<請求記号 246-213>



広重画『木曾海道六拾九次之内伏見』<請求記号 寄別2-2-1-5>弁当を食べている場面。会場に展示するのは大正時代の複製。

## 令和元年度全国書誌データ・レファレンス協同データベース活用研修会

図書館の職員を主な対象とし、標記研修会を開催します。講義と実習を通して、国立国会図書館が提供している全国書誌データを利用するための具体的な方法と、レファレンス協同データベース事業の概要や利活用方法をまとめて知ることが出来ます。

○東京本館会場

日時：8月2日(金) 13時～17時

会場：東京本館新館3階研修室

定員：30名

申込締切：7月26日(金)

○関西館会場

日時：8月16日(金) 13時～17時

会場：関西館1階第1研修室

定員：30名

申込締切：8月9日(金)

内容の詳細および申込方法は、次のページをご覧ください。

「令和元年度全国書誌データ・レファレンス協同データベース活用研修会」

[https://crd.ndl.go.jp/library/guidance\\_06.html](https://crd.ndl.go.jp/library/guidance_06.html)

○問合せ先

関西館図書館協力課協力ネットワーク係

電話 0774(98)1475

電子メール [info-crd@ndl.go.jp](mailto:info-crd@ndl.go.jp)



れはっち



ピブ君

## 国際子ども図書館展示会

「世界をつなぐ子どもの本—2018年国際アンデルセン賞・IBBYオナーリスト図書展」

国際子ども図書館では、8月6日（火）から9月8日（日）まで、標記展示会を開催します。

この展示会では、2018年の国際アンデルセン賞受賞者のこれまでの諸作品、IBBY（国際児童図書評議会）オナーリスト（推薦図書リスト）の掲載作品とその邦訳書、併せて約200冊を直接手にとってご覧いただけます。

入場は無料です。ご来場をお待ちしています。

○開催期間 8月6日（火）～9月8日（日）

※月曜日、国民の祝日・休日、8月21日（水）は休館

○開催時間 9時30分～17時

○会場 国際子ども図書館レンガ棟3階本のミュージアム

国際アンデルセン賞は、1956年に始まった国際的な児童文学賞で、IBBYから2年に一度、児童文学の分野で卓越した業績をあげた現存の作家と画家に贈られています。2018年は角野栄子さん（日本）が作家賞を、イーゴリ・オレイニコフさん（ロシア）が画家賞を受賞しました。

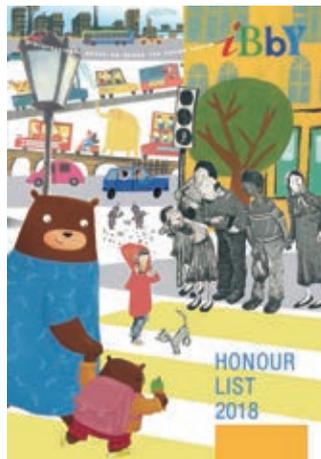
IBBYオナーリストは、IBBYが隔年で作成する推薦図書リストです。作成に当たっては、IBBYの各国支部が、自国で新たに出版された児童書の中から外国に紹介したい作品を選ぶことになっています。「文学作品」、「イラストレーション作品」、「翻訳作品」の3部門から成り、2018年は世界の国と地域から191作品が選ばれました。日本からは、文学作品部

門に古内一絵さんの『フラダン』、イラストレーション作品部門にスズキコージさんの『ドームがたり』、翻訳作品部門に母袋夏生さん編訳の『お静かに、父が昼寝しております ユダヤの民話』が選ばれています。

○問合せ先

国際子ども図書館資料情報課展示係

電話 03(3827)2053（代表）



『IBBY Honour List 2018』  
©International Board on Books for Young People (IBBY), 2018

## 令和元年度資料保存研修

国内の各種図書館員等を対象に、資料保存に関する基礎的な知識と技術の習得を目的として、資料保存研修を実施します。

○会場・日時

東京本館 新館3階大会議室 9月5日（木）、6日（金）

関西館 1階第1研修室 9月27日（金）

各日9時30分～16時30分（各日とも同じ内容です。）

○対象 国内の公共図書館、大学図書館、専門図書館等に勤務する方

○内容 講義：図書館資料の保存

実演：簡易帙を作る

実習：①簡易補修 ②無線綴じ本を直す

③外れた表紙を繋ぐ

○持ちもの えんぴつ、エプロン

○定員 東京本館52名（各日26名）、関西館20名

1機関からのお申込みは1名までとし、申込多数の場合は調整させていただきます。

○申込期間 7月2日（火）10時～19日（金）17時

○申込方法 当館ホームページの「図書館員の方へ」図書館員の研修▽令和元年度の研修▽令和元年度資料保存研修のご案内」からお申し込みください。

○問合せ先 収集書誌部資料保存課

電話 03(3506)5219（直通）

電子メール hozonka@ndl.go.jp

## 新刊案内

レファレンス 820号

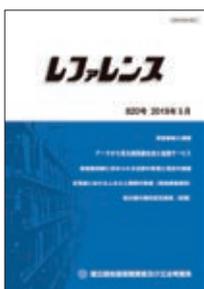
資産移転と課税―若年世代への資産移転の促進と相続税・贈与税―

データから見る超高齢社会と金融サービス

薬局薬剤師に求められる役割の変遷と現在の議論

北海道におけるふるさと納税の取組（現地調査報告）

我が国の難民認定制度（短報）



A4 90頁 月刊 1,000円（税別）  
発売 日本図書館協会

入手のお問い合わせ

日本図書館協会

〒104-0033 東京都中央区新川1-11-14

電話 03(3523)0812

# 7/8

NATIONAL  
D I E T  
LIBRARY  
MONTHLY  
BULLETIN  
2019.7/8

NO.699/700

JULY/AUGUST  
2019

CONTENTS

- 01 <Book of the month - from NDL collections>  
Evacuation of library materials after August 15, 1945
- 05 54th Committee on Designation of Rare Books  
Materials recently designated as rare books
- 14 700 issues of the *National Diet Library Monthly Bulletin*
- 25 <Tidbits of information on NDL>  
Behind remote services at the National Diet Library
- 26 <Books not commercially available>  
*Arudo manutsuio to runesansu bungei fukko*
- 27 <NDL Topics>

国立国会図書館月報

令和元年7/8月号 (No.699/700)

令和元年7月1日発行

発行所 国立国会図書館  
編集責任者 三浦良文

印刷所 株式会社丸井工文社

〒100-8924 東京都千代田区永田町1-10-1  
電話 03 (3581) 2331 (代表)  
F A X 03 (3597) 5617  
E-mail geppo@ndl.go.jp  
<http://www.ndl.go.jp/>

本誌に掲載した論文等のうち意見にわたる部分は、それぞれ筆者の個人的見解であることをお断りいたします。  
本誌に掲載された記事を全文または長文にわたり抜粋して転載される場合には、事前に当館総務部総務課にご連絡ください。  
本誌517号以降、PDF版を当館ホームページ (<http://www.ndl.go.jp/>) >刊行物>国立国会図書館月報でご覧いただけます。



NATIONAL  
D I E T  
LIBRARY  
MONTHLY  
BULLETIN  
2019.7/8

 国立国会図書館  
National Diet Library, Japan

図

国

国

書

人

士